

ALTの鬼の里Diary ~Chrisdelle編~

皆さん、こんにちは！コロナウイルスが猛威を振るう中、私は日本とアメリカの文化の違いに気が付きました。

1つ目は、日本ではレジでお金を支払う時にお金を入れるトレイがあることです。アメリカでは、レジカウンターにお金を置くことは失礼と見られるため、お金はレジの人に直接手渡しします。お互いに手が触れないのでトレイにお金を入れる方がいいと思います。



2つ目は、日本人は、お辞儀や手を振ってあいさつすることです。アメリカ人はあいさつをするとき、ハグをしたり、握手をしたりします。私は、友人や家族をハグすると幸せな気持ちになります。でも、この時期は、日本人のようにお辞儀や手を振ってあいさつする方がずっと良くて安全だと思いました。なので、私は、これからあいさつするときたくさん手を振ります。もし私を見つけたら元気いっぱい手を振ってください。私も笑顔で振りかえします。

また、アメリカ人も、しっかりせっけんで手を洗います。私は、時々、手を洗いながら「ハッピーバースデー」を歌います。それを歌い終わる時間が、汚れを落とすのにちょうどいい時間だと言われています。皆さんもぜひためしてみてください。

皆さんが健康で安全でありますように。

きほくのまち人探訪



山下 由美子さん 友澤 祥子さん

イベントのプロデュースから店舗や個人宅のリノベーションまで幅広く活動されている友澤祥子さんと山下由美子さん。2人で「merci beaucoup」というグループで活動しています。その中でも2人がプロデュースする「坂の上のマーケット」では50を超える作家がイベントの規模に合わせて出店し、多くの方々から人気を得ています。

さらに2人が大洲市で経営していたシェアカフェ「Cafe ZU-OO」も大人気。開店時には、常連のお客で賑わいました。もともと、人と話すのが好きで交流の輪をどんどん広げていく友澤さん。絵が得意で物を作るのが好きな山下さん。その才能をいかして、展示交流施設「アエレルきほく」の看板もデザインしました。「自分たちの好きなことを活動にしているので毎日が楽しい」とこやかに活動を振り返ります。

今年度は、成川溪谷のリノベーション、新メニューの開発などにも携わります。鬼北町の良さをもっともっと発信していきたいと話す2人。その表情はやる気に満ち溢れていました。

地域おこし協力隊のゆうゆう自適日記



地域おこし協力隊3年目

はやかわ ゆうこ
早川 優子



3月15日、近永駅前展示交流施設「アエレルきほく」がオープンしました。4月5日までは、町内の保育園児や住民の皆さんの手作りの雛や段飾りが飾られていました。オープン前にお花作りやお雛さまの設置などのお手伝いをさせていただきました。地域の方々といろいろとお話したり、勉強にもなりました。

オープン後、お越しいただいた方から嬉しいお言葉をいただきました。「地域の方が生き生きとされて、いろいろと解説してくれました。歩いて街角のお雛さまや石雛の写真を撮っていると、あっちにもある！ここにも行って！と案内していただきました。たく

さんの人たちに親切に教えていただき、鬼北町の人たちのこの展示会を知ってほしいと思う気持ちが伝わり、素晴らしいと思った」とのことでした。私はそんな鬼北町に住んでいることが誇らしく思いました。

これから始まる「アエレルきほく」でのたくさんのお会いが待ち遠しいです。皆さん、ぜひ、ご活用ください！

